

平成25年度 社会科教育にかかわる現状と課題

部長 仁 田 秀 三

1 社会科教育の動向

【上越地区】

新潟県小学校研究会指定社会科研究発表会が、上越市立大潟町小学校で開催された。「自らかかわり、考え判断する子ども」「自分の考えを自分の言葉で表現する子ども」を育てるため、キーワードを「自分ごと」として設定した。学区内の地域素材の教材化を図ったり、事象と子どもがかかわる指導過程を工夫したりしたことが、子どもの明るく活発な意見交流につながっていた。

【中越地区】

中越地区では、地域巡検等により地域教材や教材になりうる素材を積極的に掘り起こしている。また、授業を通して「教材（資料）をどう授業に生かして、子どもの追究意欲を高めていくか」「問題解決的な学習をどう展開するか」「言語活動をどのように充実していくか」という点から研究を重ねていた。そして、その研究成果を各学校で生かすことができるように授業研究会を開催している。

【下越地区】

下越地区では、地域巡検・講演会等により教師が地域を知り、地域素材を教材化し、社会科授業に生かせるように努めている。五泉市では「地域素材ハンドブック」作りを検討している。また、講演会・授業研究会を通して思考力・判断力等を高める授業のあり方を追究している。子どもが追究したくなる課題提示の方法、ゲストティーチャーの活用など具体的な指導方法を学んでいる。

【新潟地区】

新潟市では、「思考・判断したことを自分の言葉で表現できる児童の育成」を目指し、意欲をもって表現することができる場の設定や表現方法について研究している。言語活動における「求める児童の姿」の設定、思考の視覚化、キーワードを指定した振り返り活動が有効であることを明らかにした。

2 社会科教育の課題

- 社会科の学力向上を図るため、ICTを活用しながら地図や統計などの資料から必要な情報を読み取る、社会的事象の意味を解釈する、社会的事象の特色や事象の関連を説明する、自分の考えを述べるなど言語活動を充実して、授業を改善する。
- 子どもが意欲的に追究したくなる授業を目指すため、地域素材を活用した教材開発に努め、資料を準備・集積し、その有効な提示方法を研究する。